

九州部会 2020 年度部会研究会

-----4 月部会研究会-----

※新型コロナ・ウィルス感染拡大防止のため中止

【日時】：2020 年 4 月 25 日（土）

【場所】：西南学院大学

-----7 月部会研究会-----

【日時】：2020 年 7 月 25 日（土曜日）13：00～17：00（12：55 よりログイン可能）

【開催形式】：オンライン開催（ZOOM を使用）

【報告者および報告論題】

コーディネーター：宮崎卓朗氏（佐賀大学）、柳純氏（下関市立大学）

テーマ：統一論題なし

報告 45 分・質疑応答 30 分

【プログラム】

報告(1)：「カルチュラル・ブランディングの展開と消費者の受容プロセスーブランド・アイデンティティの継承を事例としてー」

報告者：田中晃子氏（旭川大学）

報告(2)：「2010 年代わが国におけるノマド消費に関する消費文化理論(CCT)による分析-」

報告者：吉村純一氏（駒澤大学）

報告(3)：「消費者政策としての欠陥住宅における ADR の有効性の検討ー住友不動産との建設工事紛争審査会の事例」

報告者：丸山正博氏（西南学院大学）

-----9 月部会研究会-----

【日時】：2020 年 9 月 27 日（日曜日）13：00～17：00

【開催形式】：オンライン開催（ZOOM を使用）

【報告者および報告論題】

コーディネーター：笹川洋平氏（福岡大学）

テーマ：統一論題なし

報告 45 分・コメント 5 分・質疑応答 15 分

【プログラム】

報告(1)：「伝統産業を中心とする地域創生の課題と方向性」

報告者：山口夕妃子氏(佐賀大学)

コメンテーター：笹川洋平氏(福岡大学)

報告(2)：「小売業と地域コミュニティ：高齢社会と沖縄の共同売店から考える」

報告者：林 優子氏(名桜大学)

コメンテーター：藤本寿良氏(大阪経済大学)

報告(3)：「売上の集中の原理の制約性と規模と範囲の論理－資本主義の発展に伴う流通・商業の変化」

報告者：出家健治氏(熊本学園大学)

コメンテーター：宮崎卓朗氏(佐賀大学)

-----3月部会研究会-----

【日時】：2021年3月7日（日）13：00～17：00

【開催形式】：オンライン開催（ZOOMを使用）

【報告者および報告論題】

コーディネーター：片山富弘氏（中村学園大学）

テーマ：統一論題なし

報告 45 分・質疑応答 20 分

【プログラム】

報告(1)：「クリエイティブ経済と都市の発展（仮）」

報告者：草野泰宏氏(名桜大学)

報告(2)：「福岡県における都市小売商圈構造の動態」

報告者：西島博樹氏(中村学園大学)

報告(3)：「中小小売業における小売技能概念の検討」

報告者：渡邊孝一郎氏(香川大学)・趙命来氏（香川大学）

九州部会 2019 年度部会研究会

-----4月部会研究会-----

【日時】 2019 年 4 月 27 日（土）13:00～17:00

【場所】 福岡大学 二号館地下会議室

【報告者および報告論題】

コーディネーター：大野哲明氏（駒澤大学）・杉本宏幸（福岡大学）

テーマ：商業理論と流通行動

【趣意書】

個々の流通主体の行動とそれを取り巻くマクロ構造の動態分析は、流通研究において最も重要なテーマの一つであると言って良い。2019 年度第 1 回の研究会は、「商業理論と流通行動」をテーマセッションとし、個々の地域商業者レベルでの「品揃え形成」過程の内実や、卸売業者の行動がもたらす小売市場へのインパクトについて議論する。渡邊・松田報告（第二報告）では、地域商業者の「品揃え形成」研究と経営意識研究の接続をどのように図るのかという問題、杉本報告（第三報告）では、卸売業者の商圈規模調整に関わる行動が小売市場にどのように影響するかという問題について、それぞれご報告いただく。またフリー報告（第一報告）では、広告効果における感情をめぐる議論についてご報告いただく。

報告：報告(1)はフリー・セッション、報告(2)、報告(3)はテーマセッション
(報告 45 分・コメント 5 分・質疑応答 15 分)

報告(1)：(フリー報告)「事前感情生起時の広告情報処理に対する関連感情の影響に関する予備的考察」

報告者：三井雄一氏（九州産業大学）

コメンテーター：侯 聡聡氏（九州産業大学）

報告(2)：「地域商業者の経営意識に基づく品揃え物の構想について」

報告者：渡邊孝一郎氏（九州産業大学）・松田温郎氏（山口大学）

コメンテーター：大野哲明（駒澤大学）

報告(3)：「複数市場における卸売業者の商圈規模調整」

報告者：杉本宏幸氏（福岡大学）

コメンテーター：出家健治氏（熊本学園大学）

-----8 月部会研究会-----

【日時】2019 年 8 月 3 日（土）13：00～17：00

【場所】熊本学園大学 14 号館 5 階 第 5 会議室（エレベーターを降りて直進）

【報告者および報告論題】

コーディネーター：吉村純一氏（熊本学園大学）

テーマ：流通・マーケティングとまちづくり

【趣意書】

商業や流通研究におけるまちづくりの議論は、商業集積としての商店街をいかに守るのかといった議論から、自治体やコミュニティを単位としたまちづくりをいかに行うのかといったところに拡大展開してきた。いわばまちづくりのマーケティングが課題となりつつあるとあっていいだろう。今回の部会においては、より現代的なまちづくりの課題、まちづく

りの方策、さらにはそれらを考える枠組みなどについて活発な議論がなされることを期待している。草野泰宏氏による買い物弱者対策、柳純氏による自治体によるインターネット戦略、林優子氏によるコンパクトシティについての報告をいただきながら、商業・流通研究におけるまちづくり議論の方向性について探ることにしたい。

報告：報告(1)はフリー・セッション、報告(2)、報告(3)はテーマセッション
(報告 45 分・コメント 5 分・質疑応答 15 分)

報告(1)：(フリー報告)「生鮮食料品店へのアクセスと買い物弱者」

報告者：草野泰宏氏 (名桜大学)

コメンテーター：出家健治氏 (熊本学園大学)

報告(2)：「下関市のシティプロモーションの実態と課題」

報告者：柳純氏 (下関市立大学)

コメンテーター：山口夕妃子 (佐賀大学)

報告(3)：「新たな局面を迎えたまちづくり政策ーコンパクト化への取組み(仮)」

報告者：林優子氏 (名桜大学)

コメンテーター：西島博樹氏 (佐賀大学)

-----9 月部会研究会-----

【日時】 2019 年 9 月 28 日 (土) 13:00~17:00

【場所】 九州産業大学 1 号館 7 階 N702 教室

【報告者および報告論題】

コーディネーター：笹川洋平 (福岡大学)

テーマ：小売業のグローバル化

【趣意書】

わが国では少子化・高齢化、人口減少による国内市場の縮小が予想されるなかで、わが国の企業の多くは国外へその生き残りの途をかける状況へ追い込まれている。小売業もその例外ではなく、大規模小売企業だけでなく中規模小売企業も、「アジアの成長を取り込む」を合い言葉に海外展開している。しかし、国際化を行う道のりは決して平坦ではなく、進出後も様々な課題が存在し、リスクが伴う。国際化した小売企業は労働生産性を高め、更なる成長を実現しているケースもあれば、さまざまな課題に直面し、撤退する企業も少なからず存在する。「人材確保・労務管理」、「資金調達・資金繰り」、「法律・会計・行政手続き等の制度」など国際化に際しては取り組むべき課題は多い。加えて小売商業の場合、現地消費者の嗜好への適応する品揃えできる商品調達においても現地でサプライチェーンを確立することは必須の条件であり、クリアすべき最も高いハードルといってよい。今回の研究会は、小売業の国際的展開と撤退それぞれの局面における事例的・理論的な問題点を取り上げるこ

とで、わが国の小売企業の国際競争力の強化につながる今日的な課題を明らかにすることをテーマとして開催する。

報告：報告(1)はフリー・セッション、報告(2) (3) はテーマセッション
(報告 45 分・コメント 5 分・質疑応答 15 分)

【プログラム】

報告(1)：(フリー報告)「イギリスにおける国際マーケティング展開試論ーチャネル論を中心に」

報告者：内田寛樹氏(福岡大学非常勤講師)

コメンテーター：柳純氏(下関市立大学)

報告(2)：「小売企業の海外撤退要因と撤退が及ぼす影響」

報告者：柳純氏(下関市立大学)

コメンテーター：山口夕妃子氏(佐賀大学)

報告(3)：「プラットフォーム小売業の国際展開と課題」

報告者：山口夕妃子氏(佐賀大学)

コメンテーター：西島博樹氏(佐賀大学)

-----1 月部会研究会-----

【日時】：2020 年 1 月 25 日(土) 13:00~17:00

【場所】：佐賀大学 芸術地域デザイン学部一号館 A101 教室

【報告者および報告論題】

コーディネーター：山口 夕妃子氏(佐賀大学)

テーマ：グローバル・マーケティング

【趣意書】

企業が国境を越えて活動することにおける課題は「国際マーケティング」領域における主要な議論のひとつであった。2000 年代に入ると「グローバル」というキーワードで市場や企業戦略が議論されるようになってきた。その背景には、GAFA に代表される IC 技術の発展とともに新しいビジネスモデルの登場や新興国の台頭などがあげられる。

本部会では、「グローバル市場におけるオムニチャネル形成」と「グローバル・ブランドとチャネル問題：自動車メーカーを事例に」というグローバル・マーケティング領域におけるチャネルに焦点をあてた 2 つの報告を通じて、グローバル・マーケティングにおける現代的課題と研究の方向性を明らかにすることをテーマとして開催する。

報告 45 分・コメント 5 分・質疑応答 15 分

【プログラム】

報告(1)：(フリー報告) 小売業の国際化によるロジスティクス構造の変化(仮)

報告者：魏 鍾振氏(九州産業大学)

コメンテーター：宮崎 卓朗氏(佐賀大学)

報告(2)：「グローバル市場におけるオムニチャネル形成」

報告者：方 慧美氏(九州産業大学)

コメンテーター：三井 雄一氏(西南大学)

報告(3)：「グローバル・ブランドとチャネル問題：自動車メーカーを事例に」

報告者：大石 芳裕氏(明治大学)・原田 将氏(明治大学)

コメンテーター：吉村 純一氏(熊本学園大学)

-----3月部会研究会-----

【日時】：2020年3月7日(土曜日) 13:00~17:00

【場所】：中村学園大学 7号館 5階 7501 教室

【報告者および報告論題】

コーディネーター：片山 富弘氏(中村学園大学)、明神 実枝氏(中村学園大学)

テーマ：顧客価値とマーケティング

【趣意書】

e-コマース企業による実店舗、ラグジュアリーブランドによるポップアップストアなどに限らず、広く製造業や小売業において、体験などによる顧客価値の創出に関心が向けられている。本研究会では、顧客価値がより重視される近年の傾向と今後の課題について、テーマ「顧客価値とマーケティング」のもと、活発に議論されることを期待している。第1報告ではマーケティングの差異の問題について、第2報告では価値創出の新たな仕組みとしてのポップアップ・ストアの研究について、また、フリーセッションの第3報告では、近年のキャッシュレス化とサブスクリプションの動向について、それぞれご報告いただく。

報告 45分・コメント 5分・質疑応答 15分

【プログラム】

報告(1)：「差異からマーケティングを読み解く」

報告者：片山 富弘氏(中村学園大学)

コメンテーター：大田 謙一郎氏(長崎県立大学)

報告(2)：「ポップアップ・ストア研究の現状と課題」

報告者：菊池 一夫氏(明治大学)

コメンテーター：片山 富弘氏(中村学園大学)

報告(3)：(フリー報告)「キャッシュレスとサブスクリプション～新技術受容性や経済圏の視点を踏まえて～」

報告者：太宰 潮氏（福岡大学）

コメンテーター：宮崎 卓朗氏（佐賀大学）

九州部会 2018 年度部会研究会

-----4 月部会研究会-----

【日時】2018 年 4 月 28 日（土）13：00～17：00

【場所】九州産業大学 商学部 1 号棟 8 階中会議室

【報告者および報告論題】

コーディネーター：大野哲明（駒澤大学）

テーマ：「現代の消費行動」

【趣意書】

30 年度第 1 回目の九州部会研究総会は、「現代の消費行動」をテーマとする。

具体的には、地域ブランドや情報化の進展というトレンドを念頭におき、今日の購買・消費行動の内実に接近することにした。第 2 報告では、ネット空間における情報探索行動が消費行動に及ぼす影響について、また第 3 報告では、消費者の「関与」という概念を通じ、アニメ聖地巡礼者が地域ブランド形成に果たす役割についてご報告いただく。さらにフリー報告（第一報告）では、今日の製販連携ないし SCM の下での流通システムの構造的実、とりわけそこにおける小売競争が卸システムに与える影響という基本問題について報告いただく。

報告：報告(1)はフリー・セッション、報告(2)、報告(3)はテーマ・セッション
（報告 45 分・コメント 5 分・質疑応答 15 分）

報告(1)（フリー報告）：「卸売業者による商圈調整と小売空間競争」

報告者：杉本宏幸（福岡大学）

コメンテーター：中川宏道（名城大学）

報告(2)：「ネットショッピングにおける情報探索コストの節約が購買行動に与える影響」

報告者：侯聡聡（九州産業大学）、方慧美（九州産業大学）、渡邊孝一郎（九州産業大学）

コメンテーター：太宰潮（福岡大学）

報告(3)：「アニメ聖地巡礼者の行動と動機ー消費者行動とマネジメントの視点からー」

報告者：津村将章（中京大学）、岩崎達也（関東学院大学）、大方優子（九州産業大学）

コメンテーター：吉村純一（熊本学園大学）

-----7 月部会研究会-----

【日時】2018 年 7 月 28 日（土）13：00～17：00

【場所】長崎県立大学 研究棟 6 階会議室

【報告者および報告論題】

コーディネーター：西島博樹（佐賀大学）

テーマ：「マーケティング戦略の比較分析」

【趣意書】

2018 年度第 2 回目の九州部会研究総会は、「マーケティング戦略の比較分析」をテーマとする。第一報告では、理論的アプローチとしてコトラーの学説を中心とした流通・マーケティング革新の展開についてご報告いただく。第 2 報告では、小売企業のマーケティング戦略により消費者のリスク受容度と店舗選択にどのような影響をもたらすかについて、日本、イギリス、アメリカを比較して分析され、さらに第 3 報告では、製造企業のマーケティング戦略としての商品差別化戦略と同質化戦略についてシミュレーション比較分析をご報告いただく。

報告：報告(1)はフリー・セッション、報告(2)、報告(3)はテーマ・セッション
(報告 45 分・コメント 5 分・質疑応答 15 分)

報告(1)：「流通・マーケティング革新の展開ーコトラーの学説を中心にー」

報告者：渦原実男（西南学院大学）

コメンテーター：片山富弘（中村学園大学）

報告(2)：「リスク受容度と店舗選択～日・英・米比較を通じて～」

報告者：大田謙一郎（長崎県立大学）

コメンテーター：神保充弘（長崎県立大学）

報告(3)：「商品差別化と同質化のシミュレーション分析」

報告者：小川長（尾道市立大学）、本田治（尾道市立大学）

コメンテーター：宮崎卓朗（佐賀大学）

-----9 月部会研究会-----

【日時】9 月 22 日（土）13：00～17：00

【場所】西南学院大学 学術研究所棟 1 階大会議室

【報告者および報告論題】

コーディネーター：宮崎卓朗（佐賀大学）

テーマ：「近年の小売研究の論点」

【趣意書】

小売業に関する研究領域は多岐にわたり、伝統的な小売構造研究や業態研究、小売経営史などに加え、3 月の部会でも取り上げた小売国際化研究の領域なども新たに加わっている。これらの領域の中には流行り廃りはあるのだが、完全に決着がついた研究領域はほとんど見かけることができない。どちらかというとなんか新たな問題設定の下で新たな論点として研究

が続けられている領域が多いといえるだろう。今回の部会では1つのフリー報告とともに、小売業研究の中の論点から2つを取り上げる。

報告：報告(1)はフリー・セッション、報告(2)、報告(3)はテーマ・セッション
(報告 45 分・コメント 5 分・質疑応答 15 分)

報告(1)：(フリー報告)「流通・取引慣行ガイドラインの改正と電子商取引への影響」

報告者：丸山正博氏（西南学院大学）

コメンテーター：渦原実男（西南学院大学）

報告(2)：「日本小売企業の規模の経済性」

報告者：宮崎卓朗氏（佐賀大学）

コメンテーター：西島博樹（佐賀大学）

報告(3)：「小売企業の撤退研究に関する一考察—量的把握と検討課題—」

報告者：柳純氏（下関市立大学）

コメンテーター：宮崎卓朗（佐賀大学）

-----11 月部会研究会-----

【日時】 11 月 24 日（土） 13：00～17：00

【場所】 沖縄市町村自治会館 2F（ゆいレール旭橋駅直結）

【報告者および報告論題】

コーディネーター：山口夕妃子（佐賀大学）

テーマ：「環境マーケティング」

【趣意書】

近年の企業の環境に配慮した取り組みは、ミネラルウォーターの「いろはす」のペットボトルの開発や、スターバックスの使い捨てプラスチックストローの取り扱い中止などがあり、顕著にみられるようになってきている。

また、カーシェアリングや民泊に代表されるシェアリングエコノミーや、オンライン上でリユース商品を簡単に取引できるスマートフォンアプリケーション（フリマアプリ）の普及など、環境問題解決に貢献するような新しいビジネスモデルも生まれている。

このような背景のもと今回のテーマは、環境マーケティングにおける2つの側面から議論を深めようとするものである。本報告は消費者視点の環境問題への関与においてコミュニケーションの変容を明らかにしようと試みるものである。武市報告は、社会的なシステムの中での環境問題の取り組みを発展させるために望まれる社会的ネットワークについて考察するものである

これら2つの報告を通じて、将来の世代の欲求を満たしつつ現在の世代の欲求も満足させることのできる「持続可能な発展」を達成するために企業が取り組むべき環境マーケティングの方向性を明らかにし、研究課題に関する闊達な議論が行われることを期待したい。

報告：報告(1)はフリー・セッション、報告(2)、報告(3)はテーマ・セッション
(報告 45 分・コメント 5 分・質疑応答 15 分)

報告(1)：(フリー報告)「消費文化がブランド消費に及ぼす影響
～ライフスタイルブランド THREE の事例～」

報告者：田中晃子(熊本学園大学大学院博士課程後期)

コメンテーター：草野泰宏(名城大学)

報告(2)：「環境コミュニケーションの方向性ーソーシャルメディアの特性に焦点を当ててー」

報告者：侯利娟(九州産業大学)

コメンテーター：侯聡聡(九州産業大学)

報告(3)：「2R を促進する新しいビジネスモデルと社会的ネットワーク」

報告者：武市三智子(東洋大学)

コメンテーター：出家健二(熊本学園大学)

-----3 月部会研究会-----

【日時】2019 年 3 月 9 日(土) 13:00~17:00

【場所】中村学園大学 7 号館 7501 教室

【報告者および報告論題】

コーディネーター：中川宏道(名城大学)・明神実枝(中村学園大学)

テーマ：「ソーシャル・マーケティング」

【趣意書】

本研究会では第 1 報告は自由セッションとし、ポイントカード会員のポイント使用要因について、購買履歴データを用いて明らかにするものである。

第 2 報告、第 3 報告はテーマ「ソーシャル・マーケティング」のセッションである。マーケティングと社会との関係についての理解は変化してきている。本セッションではその変化に注目し、マーケティング視点による社会課題への戦略的な関わりについて議論を深める。第 2 報告は、マーケティングによる社会課題の解決の可能な領域を整理するものである。第 3 報告は、マーケティング視点から捉えた災害に耐える強靱なサプライチェーン構築、サプライチェーン・レジリエンスの広がりについて議論を深めるものである。

報告：報告(1)はフリー・セッション、報告(2)、報告(3)はテーマ・セッション
(報告 45 分・コメント 5 分・質疑応答 15 分)

報告(1)：(フリー報告)「ポイントカード会員のポイント使用要因
：大規模チェーンの購買履歴データによる検証」

報告者：中川宏道(名城大学)・星野崇宏(慶應義塾大学)

コメンテーター：杉本宏幸(福岡大学)

報告(2):「マーケティングによる CSR 実現の可能性」

報告者: 明神実枝 (中村学園大学)

コメンテーター: 出家健治 (熊本学園大学)

報告(3):「マーケティング視点から捉えたサプライチェーン・レジリエンス」

報告者: 大平進 (千葉商科大学)・渋谷義行 (早稲田大学)

コメンテーター: 宮崎卓朗 (佐賀大学)

九州部会 2017 年度部会研究会

-----4 月部会研究会-----

【日時】 2017 年 4 月 22 日 (土) 13:00~17:00

【場所】 西南学院大学学術研究所大会議室

【報告者および報告論題】

コーディネーター: 中川宏道 (中村学園大学)

テーマ:「消費者行動」

報告: 報告(1)はフリー・セッション、報告(2)、報告(3)はテーマ・セッション
(報告 45 分・コメント 5 分・質疑応答 15 分)

報告(1) (フリー報告):「スーパーマーケットおよび家電量販店における

ロイヤルティ・プログラムの知覚価値とその要因」

報告者: 中川宏道 (中村学園大学)

コメンテーター: 小川長 (尾道市立大学)

報告(2):「顧客満足ーロイヤルティ関係の構造モデルー契約型サービスを分析対象としてー」

報告者: 侯聡聡(九州産業大学)

コメンテーター: 片山富弘 (中村学園大学)

報告(3):「クチコミの分類とさまざまな効果」

報告者: 澁谷覚 (学習院大学)

コメンテーター: 杉本宏幸 (福岡大学)

-----7 月部会研究会-----

【日時】 2017 年 7 月 29 日 (土) 13:00~17:00

【場所】 佐賀大学 3 号館 3 階 第 1 会議室

【報告者および報告論題】

コーディネーター: 宮崎卓朗氏 (佐賀大学)

テーマ:「地域ブランド研究の動向」

【趣意書】

地域ブランドが地域活性化の手段として注目されてから時を経てきたが、現実成功事例はほとんど報告されていないのが実情である。このことを反映して地域ブランドの研究も、取り組み事例の紹介が多く、事例から成功への道筋を導き出すところまで到達していないといってよいだろう。さらに各研究において地域ブランドを取り扱うための概念や理論にも異同がみられる。共通しているのは衰退する地域を何とかしたいという問題意識だけである。こうした現状を打破するためには他国の事例研究、先行研究や方法の検討などを通じて、地域ブランド研究の分析水準を上げることが必要とされる。以上の点を踏まえて今回の研究会では海外の実例や研究方法に関する報告をお願いしている。

報告：報告(1)はフリー・セッション、報告(2)、報告(3)はテーマ・セッション
(報告 45 分・コメント 5 分・質疑応答 15 分)

報告(1) (フリー報告)：「消費文化理論のブランド分析への導入
～格差定着期のブランド戦略～」

報告者：田中晃子 (熊本学園大学大学院)

コメントーター：宮崎卓朗 (佐賀大学)

報告(2)：「韓国における地域ブランド構築に向けての取組と課題
ーアンソン市の「アンソンマチュム」を事例としてー」

報告者：洪廷和(佐賀大学)

コメントーター：山口夕妃子 (佐賀大学)

報告(3)：「地域ブランド研究の方向性と課題」

報告者：西島博樹 (佐賀大学)

コメントーター：片山富弘 (中村学園大学)

-----9 月部会研究会-----

【日時】 9 月 30 日 (土) 13:00～17:00

【場所】 福岡大学二号館地下会議室

【報告者および報告論題】

コーディネーター：杉本宏幸 (福岡大学)・大野哲明 (九州産業大学)

テーマ：「市場と流通・マーケティング」

【趣意書】

流通・マーケティング研究において、市場は極めて重要な概念といえるだろう。広い意味で流通・マーケティングに関わる研究は、これを売り手と買い手の集合としてとらえたり、消費者の認知で形成されるものとしてとらえたり、チャネルの中にある多段階の取引であったり、さらに市場メカニズムとは異なるロジックで調整される対象としたり等、多様な方向からアプローチしてきたと思われる。

本研究会では、マーケティングの理論研究としての立場から市場をどう捉えるか (村上報告)を確認し、社会的資本の機能が市場と非市場がどうつながるのか (出家報告)をみて、フ

ィールドワークより得た実践の知見として市場を（松田報告）を確認する予定である。

報告はテーマ・セッション

（報告 45 分・コメント 5 分・質疑応答 15 分）

報告(1)：「商店街の衰退、そして活性化・再生可能性の方向性とは？

～商業論のまちづくり視点への拡張について～」

報告者：村上剛人（福岡大学）

コメンテーター：吉村純一（熊本学園大学）

報告(2)：「小規模小売業者の商品取扱い技術の検討」

報告者：松田温郎（山口大学）

コメンテーター：二宮麻里（福岡大学）

報告(3)：「企業の社会的責任(CSR)と社会的企業・社会的資本にみる社会的性格の

本質的な相違についての考察

ー市場と非市場の連携という同一市場におけるこれらの質的な違いと問題点ー」

報告者：出家健治（熊本学園大学）

コメンテーター：大野哲明（九州産業大学）

-----3 月部会研究会-----

【日時】2018 年 3 月 3 日（土）13:00～17:00

【場所】下関市立大学 経済学部 I-206 教室（本館 I 棟 2 階）

（理事会・休憩室は I-205 教室）

【報告者および報告論題】

コーディネーター：柳純（下関市立大学）、西島博樹（佐賀大学）

テーマ：小売国際化の進展とその論理

【趣意書】

日本の小売業が海外に進出してから 100 年が経過している。進出先は欧米市場、アジア市場と広範囲にわたるが、その間には大手小売企業であっても閉店・撤退を経験している。近年、アジア市場が注目されるなか、日系小売企業が活動を活発化させており、その傾向として①東アジアから東南アジアへのシフトといった地理的拡大のみならず、②多店舗展開による店舗数の増加という量的拡大、③小売ビジネスモデル（小売業態）の多様化という質的拡大傾向を確認することができる。

このように、小売企業の進出、閉店・撤退の実態を把握することが急務であるとともに、喫緊の課題でもある小売国際化の論理を追究することで見えてくる小売国際化の本質を明らかにすることが重要であると考えられる。

そこで、今回は「小売国際化の進展とその論理」というテーマで、小売企業が海外展開することの意義を確認すると同時に、その撤退行動にも着目ながら、小売国際化の論理について議論したい。

報告：報告(1)はフリー・セッション、報告(2)、報告(3)はテーマ・セッション
(報告 45 分・コメント 5 分・質疑応答 15 分)

報告(1)：(フリー報告)「アメリカ小売業における E コマースの現状と課題」

報告者：山口夕妃子 (佐賀大学)

コメンテーター：大田謙一郎 (長崎県立大学)

報告(2)：「フィリピンの流通と日系専門店について」

報告者：舟橋豊子 (長崎県立大学)

コメンテーター：西島博樹 (佐賀大学)

報告(3)：「小売国際化における撤退研究－失敗への対応－」

報告者：菊池一夫 (明治大学)

コメンテーター：宮崎卓朗 (佐賀大学)

九州部会 2016 年度部会研究会

-----4 月部会研究会-----

【日時】 2016 年 4 月 23 日 (土) 13：00～17：00

【場所】 中村学園大学 4 号館 4303 教室

【報告者および報告論題】

コーディネーター：明神実枝 (中村学園大学)

テーマ：「ソーシャルマーケティング：偶有性のマーケティング・マネジメントの可能性」

【趣意書】

本テーマセッションでは、偶有性のマーケティング・マネジメントの意義を再確認するとともに、その可能性を示すことを試みる。近年、経済社会問題への対処法としてマーケティングが注目されている。但し、偶有性を排した理解を前提としたことにより、マネジメントの可能性が阻まれているという課題が見られる。そこで、マーケティングの現実を創発現象として理解する視点に立ち返って、それが生成されるコミュニケーション・プロセスに注目し、マネジメントの可能性を示す。このテーマのもと、近年、経済社会問題への対処法として注目される、ソーシャル・マーケティングとデザインの二分野からの検討を報告する。明神報告では、ソーシャル・マーケティングの理解において前提される諸問題を、自然科学的あるいは技術的な理解で語られるコミュニケーション・プロセスとして捉え直し、それが生活価値とつながり得る可能性について検討する。村下報告では、近年、あらゆる分野において問題解決法として大きな期待が寄せられているデザインについて検討する。これは、デザインをデザイナーの専門的属人的な仕事の領域に留めている問題を明らかにし、組織的なデザインワークをコミュニケーション・システムとして定式化する試みである。

報告：報告(1)はフリー・セッション、報告(2)、報告(3)はテーマ・セッション
(報告 45 分・コメント 5 分・質疑応答 15 分)

報告(1):「移動販売の新潮流～ネオ屋台村の事例から～」

報告者:佐藤正弘(西南学院大学)

コメンテーター:大野哲明(九州産業大学)・笹川洋平(福岡大学)

報告(2):「社会的価値生成への視点についての一考察

：Porter & Krammer (2011)の见解を手がかりに」

報告者:明神実枝(中村学園大学)

コメンテーター:二宮麻里(福岡大学)

報告(3):「組織的なデザインワークの可能性」

報告者:村下訓(関西外国語大学)

コメンテーター:吉村純一(熊本学園大学)

-----7月部会研究会-----

【日時】2016年7月30日(土) 13:00～17:00

【場所】熊本学園大学 本館4階第1会議室(研究会・総会)

【報告者および報告論題】

コーディネーター:吉村純一(熊本学園大学)

テーマ:「都市と流通」

【趣意書】

都市と流通と題して、3つの報告を予定している。商人家族、都市の創造性(クリエイティブ資本論)、そして社会的企業・社会的資本と、それぞれが都市と流通を結ぶ概念装置を用いながらテーマに接近する。流通経済、流通政策、商業論、都市マーケティングなどに関心を有する会員の積極的な参加を期待したい。

報告:報告(1)はフリー・セッション、報告(2)、報告(3)はテーマ・セッション

(報告45分・コメント5分・質疑応答15分)

報告(1):「商人家族概念の再考」

報告者:渡邊孝一郎(九州産業大学)・松田温郎(山口大学)

コメンテーター:西島博樹(佐賀大学)

報告(2):「リノベーションまちづくりと都市の創造性」

報告者:草野泰宏氏(名桜大学)

コメンテーター:山口夕妃子(佐賀大学)

報告(3):「社会的企業・社会的資本と商店街活性化

－『従来型のまちづくり』から『まちのガバナンス』の視点にたつ
『自立的なまちづくり』へ」

報告者：出家健治（熊本学園大学）

コメンテーター：宇野史郎（熊本学園大学）

-----9月部会研究会-----

【日時】2016年9月24日（土）13：00～17：00

【場所】九州産業大学1号館8F商学部中会議室

【報告者および報告論題】

コーディネーター：大野哲明氏（九州産業大学）

テーマ：「インターネット時代のマーケティング」

【趣意書】

「ネット社会」の到来といわれて久しい。1990年代以降、企業活動領域の情報化に加え、消費生活領域の情報化が急速に進みおよそ四半世紀が経過した。その間、インターネットの導入を中心とする生活情報化の内容解明に切り込んだ多くのマーケティング研究が世に問われてきた。その代表例として、石井淳蔵・厚美尚武編『インターネット社会のマーケティング』（有斐閣、2002年）や池尾恭一編『ネット・コミュニティのマーケティング戦略』（有斐閣、2003年）などの先駆的研究がある。しかし上記の研究が発表された当時と比較すると、情報化の内実、マーケティングを取り巻く今日の環境は大きく変化した。すなわちデジタル・ネイティブという新たな消費層の増大、新しいソーシャルメディアの登場とその社会への浸透、さらにはIoTの進展など、社会経済構造の変化がそれである。今回の研究会では、フリー報告に加え、「インターネット時代のマーケティング」というテーマのもと、上記の動向を踏まえた2つの報告を予定している。第二報告では、現代の消費者行動という視点からネットユーザーのチャネル選択問題について、さらに第三報告では、100年の歴史的变化をとげてきたマーケティングが、50年の蓄積をもつインターネットによってどのような変化をこうむるのかという問題について、それぞれ議論を深めてゆくことにしたい。インターネットはマーケティングと消費の世界に何をもたらしているのか。今回の研究会が、流通・マーケティング論の現代的再構築という課題に一石を投じることになれば幸いである。

報告(1)（フリー報告）：「飲食料品業界における小売と卸売の分析」

報告者：杉本宏幸（福岡大学）

コメンテーター：中川宏道（中村学園大学）

報告(2)：「オムニチャネルと消費者行動ーインターネット上での情報探索と店舗選択ー」

報告者：侯聡聡・方慧美（九州産業大学）

コメンテーター：津村将章（九州産業大学）

報告(3)：「インターネットがマーケティングに及ぼすインパクト」

報告者：阿部真也（福岡大学名誉教授）

コメンテーター：江上 哲（日本大学）

-----11 月部会研究会-----

【日時】 2016 年 11 月 26 日（土） 13：00～17：00

【場所】 沖縄県青年会館

【報告者および報告論題】

コーディネーター：林優子（名桜大学）・大野哲明（九州産業大学）

テーマ：「商業理論のこれから」

【趣意書】

今日、商業とりわけ小売業を取り巻く市場・競争環境は激変している。百貨店や総合スーパーなど伝統的業態の衰退と、専門量販店など高度なチェーンオペレーションに支えられた革新的新業態の著しい成長。グローバリゼーションの進展に伴う世界的な大規模小売企業の参入と地域小売業の疲弊。これらの議論に関連して、都市の「ショッピングモール化」や地域の「ファスト風土化」といった近年の議論は、公共的な生活総合産業として今日の小売業をどう評価するのかという新たな問題をわれわれのまえに提示しているといっていよい。

このような構造変化を促した重要な要因として、企業活動領域における要因だけでなく、時間消費型消費やコンビニ消費に象徴される消費者側の変化を看過することはできない。研究会では、消費論の過去と現在に焦点を当てる第一報告に続き、「商業理論のこれから」と題して二つの報告を企画している。第二報告では、グローバリゼーション下の商業理論の現代的課題について、さらに第三報告では、地域社会論と商業論の接点をめぐる問題についてそれぞれ報告いただく。伝統的商業理論の既存のフレームワークの中で現代を見据えることは可能か否か。上述の問題意識を共有しつつ、各報告をめぐって積極的な議論を期待したい。

報告：報告(1)はフリー・セッション、報告(2)、報告(3)はテーマ・セッション
(報告 45 分・コメント 5 分・質疑応答 15 分)

報告(1)（フリー報告）：「消費文化理論（CCT）と流通機構の解明

ーわが国における CCT 研究の拡大をふまえて」

報告者：吉村純一（熊本学園大学）

コメンテーター：大野哲明（九州産業大学）

報告(2)：「小売国際化理論の構築とその方向」

報告者：柳 純（下関市立大学）

コメンテーター：山口夕妃子（佐賀大学）

報告(3)：「地域商業論の研究対象」

報告者：宮崎卓朗（佐賀大学）

コメンテーター：西島博樹（佐賀大学）

-----3 月部会研究会-----

【日時】 2017 年 3 月 11 日（土） 13：00～17：00

【場所】 中村学園大学 7 号館 5 階 7501 教室

【報告者および報告論題】

コーディネーター：西島博樹（佐賀大学）・寺崎新一郎（九州大学）

テーマ：「国際マーケティング」

【趣意書】

1990 年代中盤以降にみられる交通手段の発達や中産階級の増加、インターネットの普及にともない、グローバル化が急速に進行している。グローバル化は国家間の相互交流のみならず相互依存を高め、従来にみられた外国に対する否定的な態度に加えて、肯定的な態度も表面化してきている。こうした相反する消費者態度は、両極ではなくお互いに独立し、共存する場合もあることが最新の研究で明らかになっている。増加の一途をたどる外国人旅行者を捉えるには、その潜在的な消費者態度を探索し、インバウンド・マーケティングとしてビジネス機会につなげることが不可欠である。また、海外市場開拓を意図する日本企業にとって、外国に対する 2 つの異なる態度を理解することは、市場の選択やマーケティング・コミュニケーション上ますます重要となっている。

今回の研究会では、物語構造の観点から広告効果を検証するフリー・セッションに加えて「国際マーケティング」のテーマのもとに、上述の問題意識を踏まえた 2 つの報告を予定している。第二報告では、近年注目を集めている外国に対する肯定的な消費者態度を、社会的同一性理論の視座から検討する。第三報告では、観光立国を目指すわが国の鍵を握るインバウンド・

マーケティングについて、小樽商科大学よりプラート・カロラス氏を招聘し、検討する。

報告：報告(1)はフリー・セッション、報告(2)、報告(3)はテーマ・セッション
(報告 45 分・コメント 5 分・質疑応答 15 分)

報告(1)（フリー報告）：「物語構造が広告効果に与える影響」

報告者：津村将章（九州産業大学）

コメンテーター：大田謙一郎（長崎県立大学）

報告(2)：「外国に対する肯定的な消費者態度－社会的同一性理論の視点から－」

報告者：寺崎新一郎（九州大学）

コメンテーター：中川宏道(中村学園大学)

報告(3)：「異文化観光顧客セグメント間の相互作用

：ニセコスキーリゾートにおける日本人客とオーストラリア人客による内集団と
外集団知覚の比較研究」

報告者：プラート・カロラス（小樽商科大学）

コメンテーター：大方優子(九州産業大学)

九州部会 2015 年度部会研究会

-----4 月部会研究会-----

【日時】 2015 年 4 月 25 日（土） 13:00～17:00

【場所】 下関市立大学 本館Ⅱ棟 5 階大会議室

【報告者および報告論題】

報告(1)：「中心市街地活性化をめぐる政策展開とまちづくりの過程～熊本市を事例に～」

報告者：畠山直(熊本学園大学)

報告(2)：「流通システムの変遷

一商業(卸売業)主導型システムからメーカー主導型システムへ、
そしてまた商業(小売業)主導型システムへ」

報告者：出家健治(熊本学園大学)

報告(3)：「商業排除傾向とインターネットとの関係について」

報告者：阿部真也(福岡大学名誉教授)

-----8 月部会研究会-----

【日時】 2015 年 8 月 1 日（土） 13:00～17:00

【場所】 九州産業大学 1 号館 8 階商学部中会議室

【報告者および報告論題】

報告(1)：「缶コーヒー市場のマーケティング戦略」

報告者：小川長(尾道市立大学)

報告(2)： 「特定商業集積整備法を活用した商業集積の開発および運営の実態」

報告者：渡邊孝一郎（九州産業大学）・新島裕基（専修大学大学院）・
濱満久（名古屋学院大学）・松田温郎（山口大学）

報告(3)：「小売業におけるマルチチャネル展開の現状と課題」

報告者：方慧美(九州産業大学)

-----9 月部会研究会-----

【日時】 2015 年 9 月 19 日（土） 13:00～17:00

【場所】 長崎県立大学シーボルト校 特別会議室（本部棟 2 F）

【報告者および報告論題】

報告(1)： 「リスク受容がブランド・店舗選択行動へ及ぼす影響について」

報告者：大田謙一郎（長崎県立大学）

報告(2)：「フィリピンにおける多国籍企業の流通・マーケティング戦略」

報告者：舟橋豊子（長崎県立大学）

報告(3)：「日系総合スーパーのアジア展開と創造的適応」

報告者：鳥羽達郎（富山大学）

-----11 月部会研究会-----

【日時】2015 年 11 月 14 日（土）13:00～17:00

【場所】中村学園大学 4 号館 4303 教室

【報告者および報告論題】

報告(1)：「社会的関係としてのエコ理解の一考察」

報告者：明神実枝氏（中村学園大学）

報告(2)：「売り手と買い手の価格意識差について」

報告者：兼子良久（鹿児島国際大学）

報告(3)：「価値共創型食品スーパーにおける消費者視点の P B 研究」

報告者：中見真也氏（学習院大学大学院）・大崎恒次氏（専修大学）・

福田怜生氏（学習院大学大学院）・赤松直樹氏（千葉商科大学）・

西原彰宏氏（亜細亜大学）・圓丸哲麻氏（麗澤大学）

-----3 月部会研究会-----

【日時】2016 年 3 月 5 日（土）13:00～17:00

【場所】福岡大学 2 号館地下会議室

【報告者および報告論題】

報告(1)：「極端の回避性と価格帯からみる市場可能性」

報告者：太宰潮（福岡大学）

報告(2)：「酒類流通システムのダイナミズム：商業ネットワーク分析に向けて」

報告者：二宮麻里（福岡大学）

報告(3)：「マーケティング・流通と価値形成・実現との関係認識について」

報告者：村上剛人氏（福岡大学）